



フィグ・ヤーパン通信

第29号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.29

発行日 2007年1月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

新年のご挨拶を申し上げます

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も読者の皆様にとって実り多き年となるようお祈りいたします。昨年末には、ビリーの著作の中でも特に重要な価値を持った『瞑想入門』を翻訳出版することができました。本書の出版には読者の皆様からも多くのご協力をいただき、制作には実に3年に渡る歳月を費やしました。さらに、コンタクト記録シリーズ第3巻となる『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(3)』を出版しました。

フィグ・ヤーパンでは、引き続き今年も翻訳出版活動を進めていきます。高次の霊形態からのインスピレーションを受けて記した『アラハト・アテルザータ』、コンタクト記録シリーズ続編、人間の心の働きや機能を霊的な面から解説した『心(仮題)』については、すでに校正作業が進められています。

印刷物が発達した今日においては、原著者の作品を誰もが手に取り、直接確認することが容易にできます。原著者ビリーも出版を通じてそのような機会が創出されることを望んでいます。混迷の度合いを深める現代社会において、幸いにも一条の光を見出した私達は、日本においてその役割を果たすために、今後も努力していく所存です。

本年も引き続き、フィグ・ヤーパンの活動に対する読者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成19年 元旦
フィグ・ヤーパン一同

UFO写真展を開催します

1937年にスイスの片田舎で誕生したビリー・マイヤーは、早くも5歳の時から、宇宙船を目撃しています。そして、宇宙船の操縦者である地球外知的生命とコンタクトをとりながら、彼らと協力して地球上でミッションを続けてきました。

ビリー・マイヤーの名前は、数百枚に上る宇宙船の鮮明な写真や、自ら撮影したビデオ映像、地球外知的生命から譲り受けた数々の物証によってUFOコンタクティとして世界的に有名になりました。

フィグ・ヤーパンでは、ビリーの撮影した膨大なUFO写真の一部を展示した写真展を開催します。どなたでもご覧いただけますので、どうぞお気軽にお越しください。(入場無料)

開催日：1月25日～30日

11時～19時(30日は18時半まで)

会場：ギャラリー・アンダンテ

(八王子駅北口徒歩1分)



アンダンテ
住所：
〒192-0083
東京都八王子市旭町6-9
電話：
042-621-
1117

『瞑想入門』はただ今発売中です！



瞑想入門
(水瓶座時代出版刊)

装丁：A5判 ハードカバー

頁数：530 ページ

定価：3,200 円（税込み）

発行：10月1日

重量：815g

人生の意義

地球上には 1991 年現在、約 55 億人の人間が住んでいる。これらの人間の大多数は、人生を、言うなれば行き当たりばったりの運に任せて暮らしている。そしてまさに人生を成り行きに任せて生きている人間に限って、往々にして自分の人生は本当に意義あるものだろうかとの疑問を抱く。

人間は宇宙の一部として、宇宙の不変の法則と存在の目的のもとに、宇宙の中で生きている。そしてこの宇宙の法則と存在の目的を認識し理解する者は、人生の意義をも認識および理解し、こうして得た認識を直ちに自分の存在と関連させるよう常に努力する。それによって人間は自分自身を認識し、その自制力を強化し、それによって周囲に良い影響を及ぼす。人間はこのようにして得た知識によってあらゆる不安や苦悩や困窮から解放され、また周囲にもその知識を広め伝える。

人生には、学校で習った型にはまった知識よりずっと多くの事柄があることを、地球の人間、殊に今この文章を読んでいるあなたは、きっとすでに予感し知悉していたに違いない。そして確かに人生においては事実、人間がつくった法則や掟の他に、真の、より高度な秩序が存在する。しかしこの高度な宇宙的秩序は喜ばしいことだけで成り立っているのではなく、否定的なものとの肯定的なものによって構成さ

れている。だからあなたにとって苦痛に満ちた出来事もこの秩序に組み込まれており、それはそれなりの目的を果たしている。相互の関連性を検証することによってのみ、人間は肯定的なものと否定的なものとの個々の原因と相互の関連を認め、理解できる。否定的あるいは肯定的な意味を持つ何事かに遭遇した者は、否定的なものとの肯定的なものとの相互作用の中でこそ、自らその責任を負うべきであり、自分の行為の結果を自分で引き受けなければならないと認め得る。これを通じて、人間は否定的であれ肯定的であれ、遭遇する事柄に対して自分に責任があるとわかる。つまり調和ある人生であるかどうかは、ひとえに、その人間が自分の人生行路を自分が歩みたいように展開するかどうかにかかっている。そして事実、良き人生行路を一路邁進したいと望むすべての人間は、宇宙の法則との調和をはかりつつ生きるならば、この変換を自分の内部でも成し遂げるだろう。

選りに選ってなぜこんなことをするのかとたびたび考えたことが、あなたにもきっとあったに違いない。本当の真実を知らなかったがゆえに、残念なことに、いつの場合にも他に選択の余地がないように思えたのだ。神の思し召しで何事もすべて前から決められていたのだから、そのようにしなければならぬのだと信じ、あるいはただ単に思い込んでいたのだ。しかし実際にはそうではない。つまりあなた

が進むべき人生は、大まかな進路だけが決められているのである。だが、あなたが事処理する際の諸々の方法やそれに付随するいろいろなことは、定められてはいない。

本書の目的

『瞑想入門』は人間が独学によって瞑想を学ぶことを可能にするものである。グルやヨガの行者に入門する必要はない。彼らは多額の金と引き替えに「救い」をもたらすと信じ込ませるが、実のところ人間を従属させ、搾取し、思考を毒することによって精神的（意識的）に隷属させるだけだ。

しかし瞑想の修業は非常に厳しいものであり、もし人間が、霊からの至上の贈り物にあずかりたいと思うならば、大きな傾注と学習意欲と持久力が必要だ。せっかちな連中を対象にそこら中で実施されている速成講習、短期講習あるいは集中講習などはいかにも気持ちをそそるが、それは実際は極めて虚偽の危険なものであり、何よりも報われることがないものだ。

地球人類は創造の法則に従って考え行動することに慣れておらず、そのため彼らを、瞑想に要求される忍耐と静けさの状態に適合させるのは容易ではない。学校においても、また職場においても、人間は絶えず物質的・知的努力を要求され（功名心、知識欲など）、未知の認識や未知の知識を信じる態度で接することが求められる。

宗教は人間を、虚構の神の厳格な規律の下に置くことによって、人間から自主性を奪った。教会や国家や経済界や学术界など、世俗的で人間的な権力機構もまた、人間を無知で操作しやすい状態に保つことに配慮を怠らない。こうして人間は、どのような力が自分の内に実際に備わっているかわからなくなっている。そのためそれにとって代わるものを純粋に物質的な能力の中に求めるから、霊は無為にならざるを得ないのだ。しかし多くの人間はひょっとして心の中で、自分がみんなと一緒にしてきたことは正しくなかったかもしれないと感じているのではないだろうか。人間は、そして何よりも霊は、異なった生き方をしたい、つまり創造と調和して生きたいのだ。

多くの人間は、何もしないで閃光^{せんこう}を期待して道端に座っていれば、正しい生き方と正しい心的態度が授かるものだと信じている。

自分の慣れ親しんだ環境の中で、創造の法則に則って考え行動し始めれば良いのであって、何もそこから離脱する必要はない。しかし人間は、数秒間、真に自分の内部に集中することを、もうこれ以上先に延ばすことはできないし、また延ばすべきではない。例えば、内なる自己によって正確な時間を知るには、一時的には、時計を見るより時間がかかるだろう。だが一旦この集中能力を修得すれば、いろいろに利用できる。通常の物質的思考では、確かめるには何キロメートルも歩かなければならず、それでも絶対的な確信をもって「それはこうだ」と断言できないような場合に役立つはずだ。

創造は決して無為でないことを人間は考慮すべきだ。すべての被造物の存在を安定させるために、創造もまた自ら創った法則と掟を絶え間なく履行しているのだ。人間は創造の被造物の一つなのだから、創造に倣^{なら}うべきだ。

瞑想は、単に緊張を緩和させるだけのものではない。医者はそのために瞑想を推奨するが、それにとどまらず、とりわけ人間の自己鍛練や霊の修練、内面的な平和や平衡の認識と修得、そしてそもそも実際に人生をものにするために役立つ。

本書を綿密に注意して読み、述べられた知識に従って行動すれば、これらの知識やその他の多くの認識が得られるであろう。

本書の構成

本書は次の8つの主要部から構成されている：

1. まえがき
2. 序 論
3. 瞑想入門
4. 瞑想の教え
5. 先に進むにあたっての説明
6. 銘記すべきこと
7. 付 記
8. 目 次

（出典：『瞑想入門』）

新刊 『生命の哲学』



生命の哲学
 (水瓶座時代出版刊)
 装丁：A5判
 頁数：100ページ
 定価：1,000円(税込み)
 発売：2月1日
 重量：150g

人間はなぜ霊の教えを必要とするか

人間は昔から霊の教えを必要としてきたが、技術やすべての科学ならびに宗教や教派が際限なく発達した近代においてこそ、創造の法則と掟の道を完全に踏み外さないために、ますます霊の教えを必要としている。この事実を多くの人々は意外に思うかもしれないが、実際に考察してみると、人間の観点で見た技術やすべての科学に比べ、意識に関する進化の前進はかなり乏しいものである。生活水準や生活条件に関して物質的な観点では多くの改善を果たしたが、こと人間の内的世界的説明にかけては進歩はまことに微々たるものである。たしかに過去数百年、数千年の間にあらゆる物質的領域で大きな進歩がなされたが、意識的なものが遅れている結果、人間のまことの内的価値およびその内的世界全体はないがしろにされ、一部甚だしく停滞した。人間はまた、真の生命と真の生命価値、さらに動物相や植物相から人間に至るまであらゆる生命形態の生命全体を規定する創造の法則性に関する知見を失ってしまった。

もちろん地球人は、多数の生命形態に死をもたらしてきた非常に多くの病気や幾多の害悪を克服したが、いまなお世界中に死や困苦や悲惨をもたらす多くの病気や害悪がはびこっていることを忘れてはならない。これについては多大な苦しみと悲しみと災厄を老若男女を問わず無数の人間にもたらす様々な伝染病や、戦争や、テロリズムのことを一度でも考

えてみるがよい。つまり、高度な科学や非常に高い技術が発達して宇宙にまで進出しているにもかかわらず、困苦や悲惨、苦痛や不安、そして苦悩はいまなお終わっていないのだ。一つの災厄、一つの悪害、一つの不当な行為が過ぎ去ったと思うと、すぐまた同種の出来事、しかもよりひどい出来事がそれを引き継ぐ。何種類かの病気が西欧世界から消えたとは言え、人間の無分別が原因で再び戻ってくる恐れがある。他方では、世界中で癌やエイズ、心的疾患や意識の病気が大規模に発生し、急速に広がっているのである。

早足で発展する社会科学が作られ、それによって社会の弱点の理由を多く指摘できるようになったとはいえ、最も重要な事実は隠されたままだ。その訳は、つまり解決が物質的な要件にのみ探し求められてきたし、これからもそうだからである。そしてすべては本当の要因の表面的な似非知識や似非理解に基づくものにすぎないからである。そのため個々の人間や社会全体の弱点を取り除くことができないどころか、すべてはますます悪く困難になり、まったく逆になっている。事実は、多くの人間はこれらの不調和を感じてはいるが定義できず、これらに対して一人の人間として何かをなし、社会を、あるいは何人かの人間だけでも良くしたいという望みを彼らの内に目覚めさせ、育てるものが何であるか理解できないのである。しかしそれは、一方では誰も個人的に経験したことがなく、自分自身の限界を認識していないことや、個人も社会全体も変えることがで

きないことによって挫折する。厳密に言うと、個人も社会も自発的に変わらなければならないからである。それゆえ自分で個人や社会を変革する望みを抱いている個人に残されるのは夢のような望みにすぎず、それも結局は無力感に終わる。

創造の合法則性を根源とし、原初の預言者ノコデミオン、ヘノクおよびエノクによって書き留められた霊の教えは、人間によって引き起こされるすべての根本的な原因と結果が、誤った観念に基づいており、人間の生活、想念と感情と情動、そして言葉、活動、行為と行動はこれらの観念に基づいていることを示している。霊の教えはこれら誤った観念から人間を連れ出して、自己認識と自己実現の道、およびそれに必要な能力と可能性を示す。その際、特に目的に合った瞑想が全体に成果をもたらし、目標に導く。これらすべての中には制限や失敗ではなく、際限なく大きい無限の可能性がある。総じて霊の教えは肯定的な経験とそれらの体験をもたらす。それによって生活やあらゆる状況において困難に対処し、成功を達成することが可能となる。これらの経験とその体験は、人生を営むための力とエネルギーを生む。それらはまた個々の人間のためにも社会のためにも尽くし、人間が自発的に自らの意志で歩むならば本当に成功に通じる。

霊の教えとは何か

多くの人々は霊の教えについて完全に誤ったイメージを抱いている。なぜならば彼らはその言葉で宗教的なものか教派的なものを想像しているからである。しかし、霊の教えはそうしたものは微塵も関係ない。たとえ敵対者や悪意ある者、キリスト教会その他の宗教の教派代理人、誹謗中傷分子およびメディアがこれと反対のことを主張しようともである。こうした悪意や完全に誤った観念、無理解、宗教や教派の影響を受けた信仰形態、さらにはメディアの煽り立てなどによって、霊の教えおよび霊の教えの推進者について、現実および真実とは全く掛け離れたイメージが作られている。霊の教えを受け入れる人々は世界改良家、秘教徒、現実離れした者、神秘主義者、教派主義者と罵られ、知ったかぶり屋、服従、不遜、菜食主義や完全菜食主義と非難される

が、敵対者たちは霊の真の教えを何も知らなければ理解もしていないのである。霊の教えが真の平和主義と真の愛、人間性、平衡、平和と愛、内面的な自由と真の平和、真の人間性、調和、肯定的な想念と感情を持った積極的な生き方、そして知識と英知を教えているということ、彼ら敵対者は全く知らない。そのために、宗教、教派、哲学その他の世界観、およびそれらの実践と平和主義を偽った策謀が称賛されたり驚嘆されたりする一方で、霊の教えに好意を持つ人々の生き方は社会や現実から掛け離れたものと見なされる。だが本当は、我を忘れて非現実的なものとかかわり合っているのは、霊の教えに好意を持つ者ではなく、宗教、教派、哲学その他の世界観の誤った教えを信じている者の方なのである。

霊の教えに対して広く偏見が持たれ非難が加えられているにもかかわらず、すでに霊の教えに取り組み、その研究に努め、そこで教えられている創造の法則性に準拠して生きるまでに理性の発達した人間は存在する。

ここで明言しておかなければならないのは、霊の教えは秘教や宗教や教派や、教団その他のカルト主義ではない。それはまた霊験あらたかな万能薬でも、何らかの奇跡を起こさせる教えでもなく、成果を達成しようとするなら何事も懸命に働かなければならないことを諭す教えである。それはまた生まれながらの名人はなく、焼き鳥になった鳩が口の中に飛んで入る（訳註「棚からぼた餅が落ちてくる」の意）ことはない、ということ教える。さらにこの教えは、忘我や神性というもの、そしてまた他人に対する優越は存在しないことを明らかにする。なぜならば、人間は誰も平等であり、他の人間に比べて価値が高いとか低いということはないからである。

霊の教えは人々に自分の想念や感情や情動、さらに日々の生活における自分の活動や行動に実際に関連づけた教えを与える。そのための掟もしくは推奨があるが、それらは主として次の49の原則で表現される。

- 1) 人間はだれも自分でみずからの人生の意味を問い求め、見出し、そして自分の生活と活動を改善するためにそれを活用しようとしなければならない。

- 2) 人間はだれも自分自身でなければならず、それゆえまた自分自身の指導者として、独自のめざましい着想を生み出し、それを追求し、実現しなければならない。
- 3) 人間はだれも自分の理性と理解力を働かせて、自分に対して最良で有益なものを求め、自分の意志で自己を形成し、そして自分自身の欲求に自発的に従うようにしなければならない。
- 4) 人間はだれも常に自分自身であり、まったく独自の強烈な体験を持ち、決して隷属させられたり屈服させられたりすることのないよう、自己を形成しなければならない。そうすることによって、あらゆる点で、特に想念と感情、そしてまた決断、見解、意見、情動および行動などにおいて、自分自身の内面的自由と外面的自由を維持しなければならない。
- 5) 人間はだれも自分自身に対して必要な好意と愛情を示し、自分の中で安心感を覚えなければならない、そしてまた自分自身の想念、感情、情緒、行為および意見などを理解できるよう自分に対して誠実でなければならない。
- 6) 人間はだれも高い目標に到達できるという自信を持てるように、その想念、感情、着想、願望、欲求および行動などを整えなければならない。しかしそれらの目標は常に自分の才能や可能性の実態に適っていなければならない、突拍子もないものや高すぎるものであってはならない。
- 7) 人間はだれもあるがままの自分を見、かつ知らなければならない、自分を完全無欠の世界と思いつ込んではいならない。なぜならば、そのようなことはどんな人間にも不可能であり、それゆえだれもが学ばなければならない、したがって誤りや不完全性を免れられないからである。つまり人間にあってはすべて明瞭で、何もかも正しく、自分が同胞より優れているということはあり得ないのである。
- 8) 人間はだれも他の人間と意識の点で違うこと、したがってどんな人間も他人と全く同じように知的ではあり得ないことを、常に十分意識していなければならない。だからといって同胞を愚かだとか、レベルの低い人間と評価したりしてはならない。そのようなことは、たとえ同胞が宗教や、それどころか教派に囚われている場合でも許されない。そうであるにもかかわらず彼らもまた他の人間とまったく同じく、創造と自然に基づく生命と進化的学習の法則性に組み込まれている人間だからである。
- 9) 人間はだれもみずから努力して物質的な領域だけでなく、意識、性格、人、徳、想念と感情および心の領域においても、公正な人、誠実な人、分別のある人、志向の高い人などとして自分の生存と実在的な義務を形成し履行するよう努めるべきである。それによって人間は自分自身を高めようとする明確な動機を作り上げなければならない。ただし宗教、教派あるいは何らかの形で、自分を貶めることがないようにしなければならない。
- 10) 人間はだれも自分の理想主義を価値のないもの、証明できないもの、疑わしいもののために使うべきではなく、自己を真の本質そのものにおいて認識し、それをいっそう改善して完全なものにし、さらには外に向かって実現することに特にその理想主義を向けるべきである。なぜならば、このような真の本質は進歩と成功をめざすものの本来の本性、したがって生命の形成の根源だからである。
- 11) 人間はだれも何らかの事柄を信じるのではなく、常に根本的な真理を求めるべきである。それは人間がすべてを徹底的に究め、すべてを考え抜いて、その理性と判断力と健全な論理を働かせたときに、自分自身の内にもみ見出すことができる。こうして人間は真理を自分自身の内にしか見出せないが、それはまた人間が自分の中で決して証明できない事柄に対する何らかの信仰に固執しない場合に限られる。信仰とは証明ではなく、愛すべきもの、望ましいもの、正しいものとして受け入れることにすぎず、それに対して真実度を引き合いに出すことはできない。信仰はまさに証明可能な真理という事実が欠如しているがゆえに、証明能力を完全に欠いているのである。

(出典：『生命の哲学』 次号に続く)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 今年出る本 □

530 ページの大作となりました『瞑想入門』は、ただ今販売中です。まだご覧いただいている皆様は、是非この機会にお求めください。送料は、1冊 815g 340円、2冊 1630g 450円、3冊 2445g 590円となっています。また、霊の教えについて解説した『生命の哲学』も、水瓶座時代出版より出版されました。『瞑想入門』と併せてご覧ください。

本年は、コンタクトシリーズ第4巻となる、『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(4)』、ビリー・マイヤーが高次の霊水準からのインスピレーションを受けて記した『アラハト・アテルザータ』、人間の精神的な機能について解説した『心(仮題)』について、出版に向けての作業が進められています。準備が出来次第、出版のご案内を差し上げますので、どうぞご期待ください。

フィグ・ヤーパンの翻訳出版は、読者の皆様からのご支援と、スタッフのボランティア活動によって行われています。1冊の書籍を出版するためには、翻訳費、印刷費、販売費等の多くの経費を必要とします。本年もフィグ・ヤーパンの翻訳出版活動をご支援くださいますよう、どうぞよろしく願いいたします。なお、フィグ・ヤーパンの出版活動についてのご意見、ご要望等がありましたら、お気軽に事務所までご一報くださいますようお願いいたします。

□ FIGU岡山スタディグループ □

中国地方で初めて、岡山県にスタディグループが誕生します。2ヶ月に1度、奇数月の午後1時～5時に、倉敷市民会館(電話 086-425-1515)にて集会が行われます。第1回目の開催予定日は1月21日です。詳しくは、以下の連絡先までお問い合わせください。

FIGU岡山スタディグループ

世話人 高月健次

電話 080-1022-0624 (午後7時～9時)

FAX 086-473-7748

Eメール kennatureta@hi.enjoy.ne.jp

□ UFO写真展を開催します □

巻頭でご案内した通り、フィグ・ヤーパン初めての試みとして、ビリー・マイヤーの撮影したUFO写真の展示会を開催することになりました。数多い作品の中から、選りすぐりの作品を引き伸ばしました。世界でも類まれな貴重な記録写真の数々をご覧ください。どうぞご期待ください。また、開催期間中はフィグ・ヤーパンの書籍類の展示販売も実施する予定です。展示会場は、八王子駅北口から徒歩1分の好立地です。入場も無料となっておりますので、皆様お誘い合わせの上ご来場ください。スタッフ一同、お待ちしております。



1975年7月9日
フッフスビューエル
・ホフハルデンにて
ビリー・マイヤー撮影



1976年3月8日
パフテルヘルンリにて
ビリー・マイヤー撮影



1981年3月26日
ゼックラー、
デュルシュテレンにて
ビリー・マイヤー撮影

□ パンフレットを作成しました □

フィグ・ヤーパンの活動を紹介するためのパンフレットを作成しました。A4両面三つ折で、ビリー・マイヤーとプレアデス/プレヤール人とのコンタクトや、フィグのミッションについて分かりやすくまとめられています。パンフレットは無料で配布しております。ご希望の方は、住所氏名と返送用の切手を同封し、フィグ・ヤーパンまでお申し込みください。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■瞑想入門 新刊!

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■生命の哲学 新刊!

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※ 15,000 円以上あるいは 3000 グラムを超える場合の郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 29 号 (無料)

発行日 2007 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2007 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.